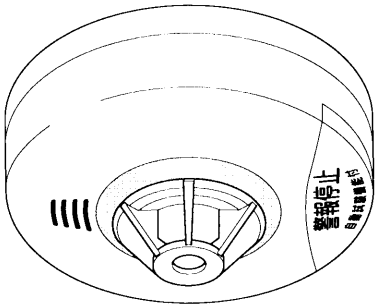
TOSHIBA

消防法令適合品 NS

取扱説明書

住宅用火災警報器 なるる

電池10年(熱式)



TCRG-10N

自動試験機能付
(電池式、移報接点付)

お買い上げありがとうございます。
ご使用にあたりましては、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しくご愛用の程お願いいたします。なお本取扱説明書はいつでもお読みいただけるところに大切に保管してください。
この取扱説明書は保証書を兼ねています。
販売店(工事店)様へ…工事が終了しましたら、保証書内に必要事項をご記入の上、必ずお客様へお渡しください。
本警報器は交換の目安として、10年を推奨します。

東芝住宅用火災警報器保証書

形名	TCRG-10N		
★お客様	お名前	ふりがな 様	
	ご住所	〒□□□-□□□□	
	電話	市外	市内 / 番号 / 呼
保証期間	本体	1年	★お買いあげ日 □□年□□月□□日から
★ご販売店	住所・店名 電話		

東芝ライテック株式会社

〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13(南品川JNビル)

本書は、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書による正常なご使用で、保証期間中に故障した場合に、本書記載内容にて無料修理をさせていただくことをお約束するものです。

保証期間中に故障が発生した時には、本書と商品をご持参のうえ、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。

★印欄に記入のない場合は有効とはなりませんから、必ず記入の有無をご確認ください。本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

(右記をご覧ください)

(60816)A

保証について

・保証期間は、**商品お買い上げ日より1年間です。**
・取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理させていただきます。

修理を依頼されるとき

・保証期間中は、保証書を添えてお買い上げの販売店までご持参ください。
・保証期間を過ぎている時はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。
・アフターサービスについてご不明な点並びに修理に関する相談は、お買い上げの販売店または東芝のお客様相談センターにお問い合わせください。その際は器具の形名、お買い上げ時期をお忘れなくお知らせください。

保証の免責事項

1.保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(1) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(2) お買い上げ後の取り付け場所移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
(3) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障及び損傷
(4) 車両、船舶等に搭載された場合に生じる故障及び損傷
(5) 施工上の不備に起因する故障や不具合
(6) 法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷
(7) 日本国内以外での使用による故障及び損傷
2.離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。

部品について

・修理のため取り外した部品は、特段のお申し出がない場合は弊社にて引き取らせていただきます。
・修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

●修理やアフターサービスに関するお問い合わせやご相談は、お買い上げの販売店や工事店または東芝お客様ご相談センターにお問い合わせ下さい。その際は器具の形名、お買い上げ時期をお忘れなくお知らせください。

1. 修理アフターサービス

・ご転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理のご相談ができない場合
東芝家電修理ご相談センター (フリーダイヤル) 0120-1048-41
携帯電話、PHSからのご利用は
東日本地区(北海道、東北、関東、甲信越、東海、沖縄県) 044-543-0220
西日本地区(上記以外) 06-6440-4411
・新商品などの商品選び、お取扱い・お手入れ方法などのご相談
東芝家電ご相談センター (フリーダイヤル) 0120-1048-86
携帯電話・PHSからのご利用は (03)3426-1048
FAX (03)3425-2101
(365日:8:00~20:00受付)

電話で 365日 24時間 お応えします

・「東芝家電修理ご相談センター」「東芝家電ご相談センター」は東芝テクノネットワーク株式会社が運営しております。
・お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
・利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

※電話受付:365日・24時間受け付けます。
※フリーダイヤルは携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。

2. 商品の概要

・この警報器は日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品ですが、消防法に規定された「自動火災報知設備」には代用できません。
・この商品は、火災の熱をキャッチして警報音で知らせる住宅用火災警報器です。消火装置や火災防止器ではありません。
・お取り付けいただいた部屋、廊下などの部分的な警戒になりますので、万一の火災に対してより効果を発揮させるためには必要に応じて、複数の場所にお取り付けいただくことをおすすめいたします。

<生産完了 2010年10月01日>

3. 警告・注意表示等の基準

この取扱説明書の中で使用している警告･注意表示等の基準は、下表の通りです。

⚠ 警　告	取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。
⚠ 注　意	取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合。

4. 警報器についての主な注意事項

⚠警　告

○この本警報器は火災で発生する熱を音で知らせるもので、消火装置や火災防止器ではありません。火災には十分ご注意ください。
○この警報器は警報音をその場で発しますので、日頃、人のいない部屋に設置する場合は、警報音が聞こえるかどうか確認してから取り付けてください。また、次のような場合は警報音が聞こえないことがありますので、注意してください。
- ･就寝中、薬を服用していた場合
- ･酒を飲んで就寝した場合
- ･ドアを閉めているときの隣室での警報時
- ･交通、ステレオ、ラジオ、テレビ、エアコンなどの騒音が大きい場合

○この警報器は熱をキャッチして警報を発しますが、次のような場合は火災を感知できないことがあります。
- ･火のまわりの早い火災
- ･爆発的な火災
- ･ガス漏れ、薬品火災、電気火災など
- ･くん煙火災

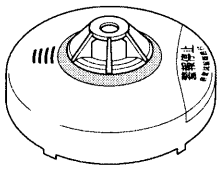
○この本警報器は屋内型であり、屋外でのご使用はおやめください。
○電池切れ時の場合は警報音は鳴りません。
○殺虫スプレーなどを警報器に直接かけないでください。
○この警報器のすき間に針金などを差し込まないでください。
○雨水のかかる場所､お風呂などのように高湿度環境または水蒸気の直接当たる場所や結露の発生する場所には取り付けないでください。

⚠注　意

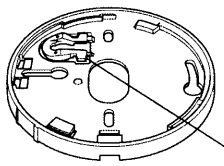
警報器は精密に調整されていますので、分解しないでください。

5. 商品のご確認

次のものが揃っていることを確認してください。



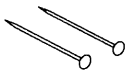
警報器（1個）



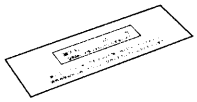
取付ベース（1個）
※出荷時に警報器に取り付けてあります。

フック

取付ネジ（2本）



クギ（2本）

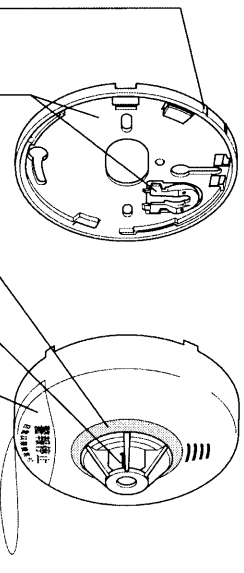


購入日シール

専用電池
（フィルムをはがさないでください）
※警報器に組み込んであります。
使用時は警報器との接続が必要です。

取扱説明書（本書）

6. 各部の名称と働き①



●取付ベース位置合わせ目印突起
警報器を取り付ける際の目印に成ります。

●取付ベース、フック
警報器を天井または壁に取り付けるために使用します。

●表示灯
警報音に合わせて点滅します。

●熱感知部（サーミスタ）
このサーミスタで熱を感知します。

●ボタン
（警報音停止、テスト用）

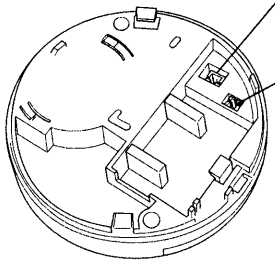
●リングひも
（警報音停止、テスト用）

■警報音の止め方
警報音が鳴っているときにボタンを押す、またはリングひもを引いてください。

■テストの方法
通常時にボタンを押す、またはリングひもを引いてください。
詳しくは､[22.定期的なテストのお願い]を参照してください

注　意 ⚠	リングひもを引く際、必要以上の力で強く引き続けないでください。警報器が壊れたり、リングひもが切れるおそれがあります。

7. 各部の名称と働き②



●電池用コネクタ
同梱の専用電池を接続する為のコネクタです。

●移報出力用コネクタ
移報接点を出力する為のコネクタです。
別売りの移報コネクタ：TFS-802を接続する場合に使用します。

8. 警報器の作動

熱を感知すると、約1秒間隔で「ピーッ！ピーッ！ピーッ！」と警報音が鳴り、同時に表示灯が点滅してお知らせします。

注　意	・警報音を発した時、電池を外さないでください。ボタンを押す、またはリングひもを引くと、警報音は止まります。
⚠	・室温が高い場合は約5分後に再び警報音が鳴ります。換気等を行い、室温が下がると警報音は自動的に止まります。

9. 自動試験機能と警報①

自動試験機能とは、機器が正常に動作しているかを自己診断する機能のことを言います。機器が故障した場合や、電池の容量が少なくなってきた際に、警報音と表示灯で状態をお知らせします。

①故障警報

熱の感知部に異常が発生し、熱が正常に感知できなくなった事を自動的にお知らせする機能です。

■機器の故障を検出すると、故障感知モードに入り約8秒おきに（ピッピッピッ）と言う故障警報音と表示灯の点滅により正常に機能していないことをお知らせします。

※故障警報音が鳴った際は、すみやかにお買い上げの販売店にご相談いただき、警報器を交換してください。
故障状態では、正常に火災を感知できません。

●故障感知モード時にボタンを押す、またはリングひもを引くと、「ピーッ！」と鳴り、その後約12時間、故障警報を停止させることができます。
夜間や早朝など、すみやかに警報器の交換ができない場合にご利用ください。

※但し、警報停止をしている間は火災を感知できません。

●故障警報停止中にボタンを押す、またはリングひもを引くと故障警報音が鳴り同時に表示灯が点滅して、故障警報停止中であることをお知らせします。

警　告	機器が発する故障警報は、機器が正常に火災の感知が出来ない状態にあることを意味します。 警報停止をする機能は有りますが、故障警報中(停止中含む)に火災が発生した場合、火災を感知できず危険な状態が生じる事が想定されます。 速やかに機器を交換してください。
⚠	

10. 自動試験機能と警報②

②電池切れ警報

電池電圧が低下した場合、自動的に電池切れをお知らせする機能です。

■電池電圧の低下を検出すると、電池低下警報モードに入り約30秒おきに(ピッ)という電池切れ警報音と表示灯の点滅により電池がなくなってきたことをお知らせします。

※電池切れ警報が鳴った際は、すみやかにお買い上げの販売店にご相談いただき、新しい警報器もしくは専用電池と交換してください。

●電池低下警報モード時にボタンを押す、またはリングひもを引くと、「ピーッ！」と鳴り、その後約12時間、電池低下警報を停止させることができます。
夜間や早朝など、すみやかに警報器の交換、もしくは電池の交換ができない場合にご利用ください。

※電池切れ警報を停止させている場合も火災の検出はしています。

●電池切れ警報停止中にボタンを押す、またはリングひもを引くと電池切れ警報音が鳴り同時に表示灯が光って電池切れ警報停止中であることをお知らせします。

警報器本体の交換目安はご購入後約10年です。
電池切れ警報が鳴った際は、機器に貼り付けられた「購入日シール」をご確認いただき、お買い上げの販売店にご相談ください。購入日から約10年経過している場合は新しい警報器への交換を推奨いたします。
電池を交換する場合は専用リチウム電池をご使用ください。
※専用リチウム電池部品コード：18173008

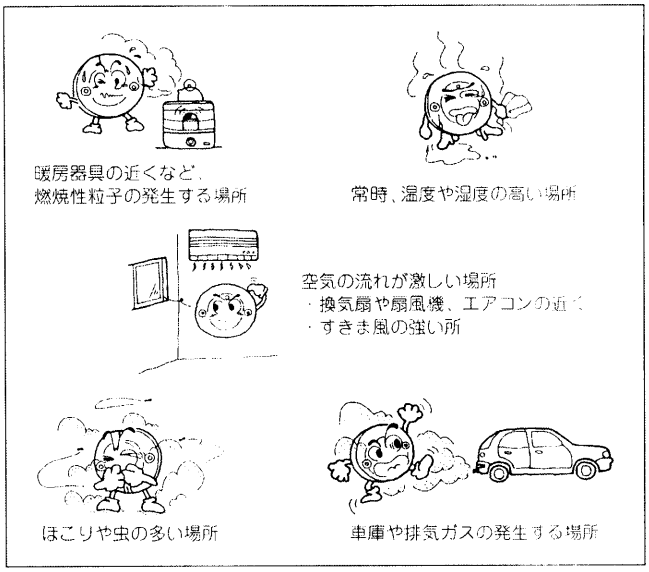
11. 故障かな？と思ったら

警報器の症状とその原因、対処について下表に示します。
下記の対処を行っても直らない場合は、お求めの販売店までご連絡ください。

症　状	原　因	対　処
テストボタンを押しても警報音が鳴らない。	電池が接続されていない。	「14.警報器を取り付ける前に①」を参考に、正しく電池を接続してください。
	警報音停止状態（熱を感知してから約5分間）になっている。	5分後、再度テストボタンを押してください。
火災でないのに警報音が鳴り、同時に表示灯が点滅している。	火災以外の熱（料理中の熱、ストーブやガスコンロの熱、直射日光などによる熱）を警報器がキャッチした。	警報器周辺の温度が下がるまでお待ちください。また、火災以外の熱で警報音が多発する場合は取り付け場所を変えてください。
30秒間隔で警報音が「ピッ」と鳴り、同時に表示灯が光る。	電池の電圧が低下しています。	新しい専用リチウム電池に交換してください。 購入日から10年経過している場合は新しい警報器への交換を推奨します。
8秒間隔で警報音が「ピッピッピッ」と鳴り、同時に表示灯が点滅する。	警報器の故障です。	新しい警報器と交換してください。

<生産完了 2010年10月01日>

12. 次のような場所には取り付けないでください

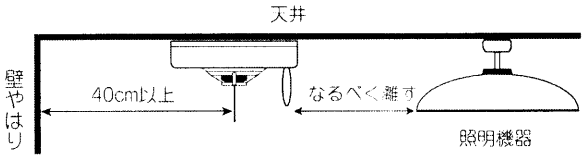


注　意	警報器は必ず正しい取り付け場所に取り付けてください。 上図のような場所に取り付けた場合、誤作動の原因になり、正常に火災を警報できません。

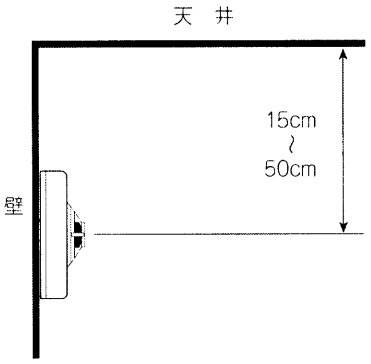
・警報器は0℃～40℃の温度範囲内の場所に取り付けてください。
・居室の場合は各部屋の中心になる位置に取り付けると、より効果的です。

13. 警報器の取り付け場所

・警報器のボタンが操作しやすい位置に取り付けてください。
◎天井面は壁やはりから40cm以上離す。

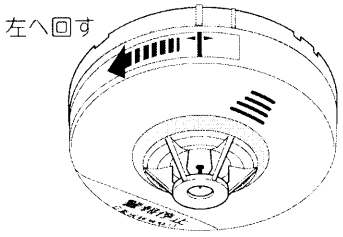


◎壁面は天井面下15cmから50cmまでの範囲

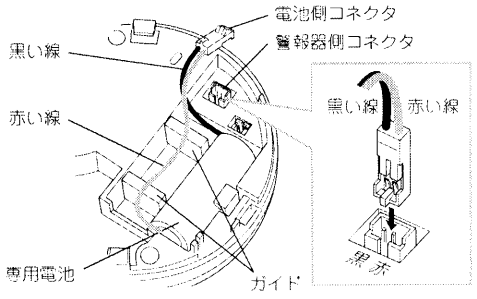


14. 警報器を取り付ける前に①

■警報器と取付ベースを外します。
・警報器を左に回して取り外してください。



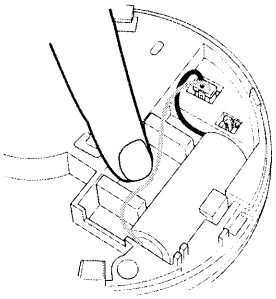
■電池を取り付けます。
・電池はそのままの状態で、警報器側コネクタに電池側コネクタを正しく差し込んでください。
（電池のフィルムは剥がさないでください。）



●正しく接続されていない場合、警報器が作動せず、警報音が鳴りません。

15. 警報器を取り付ける前に②

電池の上に赤い線がこないように、ガイドの間に軽く押し込んでください。



●電池のコネクタを接続し、１０秒以上経過後にテストを行って作動確認をしてください。

●同梱の［購入日シール］に、マジック等の消えにくいペンでご購入日を記入し、警報器側面などに貼っておくと、警報器交換のおおよその目安がわかります。
（警報器交換の目安は約１０年です）

●電池を接続した後、および警報器を取り付けた後には作動確認を行ってください。

警　告	・電池の接続、警報器の取付がしっかりとされていない場合、火災時に正常に作動できないおそれがあります。 ・電池を火の中に入れたり、加熱・分解・改造をしないでください。絶縁物やガス排出弁などを損傷し、液漏れ・発熱・破裂するおそれがあります。

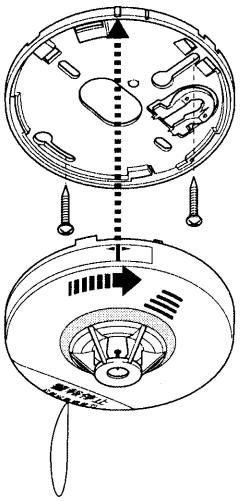
16. 警報器の取り付け方法①

次の手順にしたがって警報器を取り付けてください。

●天井に取り付ける時

手順①
天井面の構造体（下地）が通っている場所に、取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。
（※必要以上の力で締め付けないでください。またベースには1．1N・m以上の力が加わらない様に気をつけてください。）

手順②
取付ベースの位置合せと警報器の位置合せが取り付けた時に直線上になる様に警報器の底面部を取付ベースに当て、警報器が止まるまで右に回してください。



警　告	警報器の取り付けは、安定した台に乗って作業を行ってください。 転倒・落下などの危険があります。

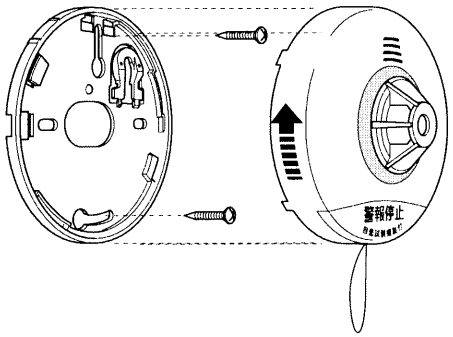
※埋込アダプタ：TFS-801(別売)を使用し、埋込取り付けできます。

17. 警報器の取り付け方法②

●壁に取り付ける時－1

手順①
壁面の柱が通っている場所に、取付ベース内側にある表示の⇧上(ＵＰ)が上側に来る様に取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。
（※必要以上の力で締め付けないでください。またベースには1.1N・m以上の力が加わらない様に気をつけください。）

手順②
取付ベースの位置合せと、警報器の位置合せが直線上に成る様に合わせ、警報器が止まるまで右に回してください。

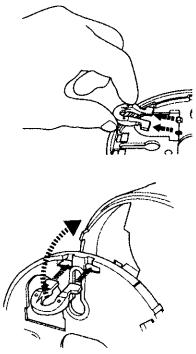


警　告	取付の際は、壁装材に適したネジを用いて適切な力で取り付けてください。リングひもを引いた時などに機器が落下する危険があります。

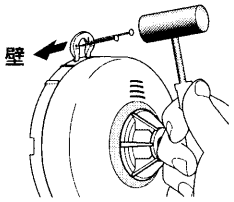
18. 警報器の取り付け方法③

●壁に取り付ける時－2

手順①
ベースを警報器からはずし、図のようにベースからフックを取ってフックの足をベースの外側から差し込んだ状態で、ベースと警報器を取り付けます。



手順②
フックのクギ穴から付属のクギを通し、壁面の柱が通っている場所に2ケ所打ちつけてください。

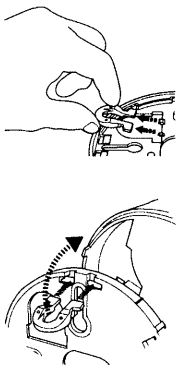


注　意	壁面に付属クギで固定する際は、十分お気をつけください。クギが体にささったり、金づちで指などをケガする危険があります。 また、機器の破損にもお気をつけください。

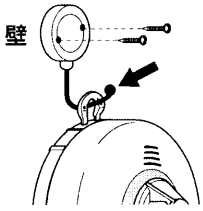
19. 警報器の取り付け方法④

●壁に取り付ける時－3

手順①
ベースを警報器からはずし、ベースからフックを取ってフックの足をベースの外側から差し込んだ状態で、ベースと警報器を取り付けます。



手順②
壁面の柱が通っている場所に市販の壁掛けフック等を強固に固定し、警報器をつけ下げてください。

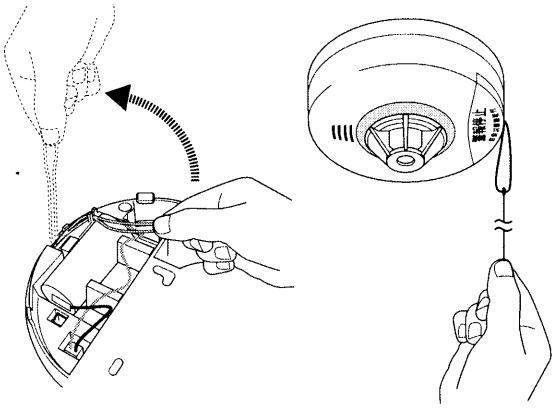


警　告	市販の壁掛けフックを使用する時は、ネジ式の壁掛けフックにしてください。 壁掛けフックと壁とを両面テープ等で固定していると、フックごと落下する危険があります。 またフックを取付面側に曲げないでください。 警報器がフックからはずれて落下し、ケガをする危険があります。

20. リングひもについて

天井や壁に取り付けた時にボタンが押せない場合は、別途引きひもをご用意いただき、図①の様に収納されているリングひもを出し、図②の様にリングひもと結んでご使用ください。

図①　　図②



警　告	機器を壁に取り付けてひもを結んで使用する場合は、必ず警報停止ボタンが下側になる事を確認してください。横向きなどで取り付けられていると、強くひもを引いた際に警報器が取り付けベースからはずれる危険があります。

21. 移報接点について

移報出力コネクタに、フラッシュ付増設ブザー：TFS-803やテレビドアホン（移報入力端子のある機種）を接続することにより、警報器が火災を感知すると連動して動作させることができます。
他の機器を接続する場合は、別売の移報コネクタ：TFS-802が必要です。
（定格：オープンコレクタ出力、DC24V、50mA未満）

22. 定期的なテストのお願い

・取り付け後は定期的に（1ヶ月に1度）ボタンを押して（またはリングひもを引く）警報器が正常に作動するかテストしてください。

●テストの方法

2秒以上ボタンを押す、またはリングひもを引いてください。

・正常なとき
「ピーッ！ピーッ！ピーッ！」と警報音が3回鳴り、同時に表示灯が点滅する。

・異常な時
[11. 故障かな？と思ったら]を参照し、適切な処置をしてください。

・1週間以上留守にされた時は、警報器が正常に作動するかテストしてください。

警　告	・テストの時、決してライターなどの炎を使用しないでください。警報器を壊すばかりでなく、火災の原因になります。 ・テストをする時は、安定した台に乗って行なってください。転倒・落下などの危険があります。

23. お手入れ方法

・毎年1度は、中性洗剤に浸した布を十分に絞り、警報器の汚れを拭き取ってください。
この際、熱感知部に触れない様、注意して下さい。

注　意	警報器を水洗いしないでください。 また、ベンジンやシンナーを使用しないでください。故障の原因になります。

24. 廃棄について

この警報器およびリチウム電池の廃棄については、各市町村で定められた廃棄方法に従ってください。
電池を廃棄する時は、電池を束ねているフィルムをはがさないでください。
フィルムが破れていたりキズ等がある時は、フィルムの上から＋極側と－極側を絶縁性テープで絶縁してください。
さらに、電池のコネクタを絶縁性テープで電極が見えないように巻き、各市町村で定められた廃棄方法に従って「使用済みリチウム電池」として廃棄してください。

25. 仕　様

型名	TCRG-10N
種別	定温式住宅用火災警報器
鑑定型式番号	鑑住第18～77号
感知方式	熱式
感度	定温式65℃相当
定格	DC3V、30mA
電源	専用リチウム電池 DC3V：CR17450E-R-CN17 三洋電機 CR17450-WK-15　日立ﾏｸｾﾙ
電池有効期限	約10年間
機器交換の目安	約10年
音量	1mにて70dB以上
外形寸法	φ100mm × 46.7mm
警報器質量	約100g（電池を含まず）
電池質量	約25g
移報出力容量	オープンコレクタ　DC24V、50mA未満 ※出力用の移報コネクタは別売
使用温度範囲	0℃～40℃
復旧	自己復旧方式
設置場所	天井面・壁面

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
※使用環境により、機器交換の目安および電池有効期限は短くなることがあります。
※自己復旧方式とは、火災の熱が無くなると自動的に警報が停止し、監視状態に戻る機能です。

<生産完了 2010年10月01日>